

大熊B班

神戸常盤大学 長澤杏美

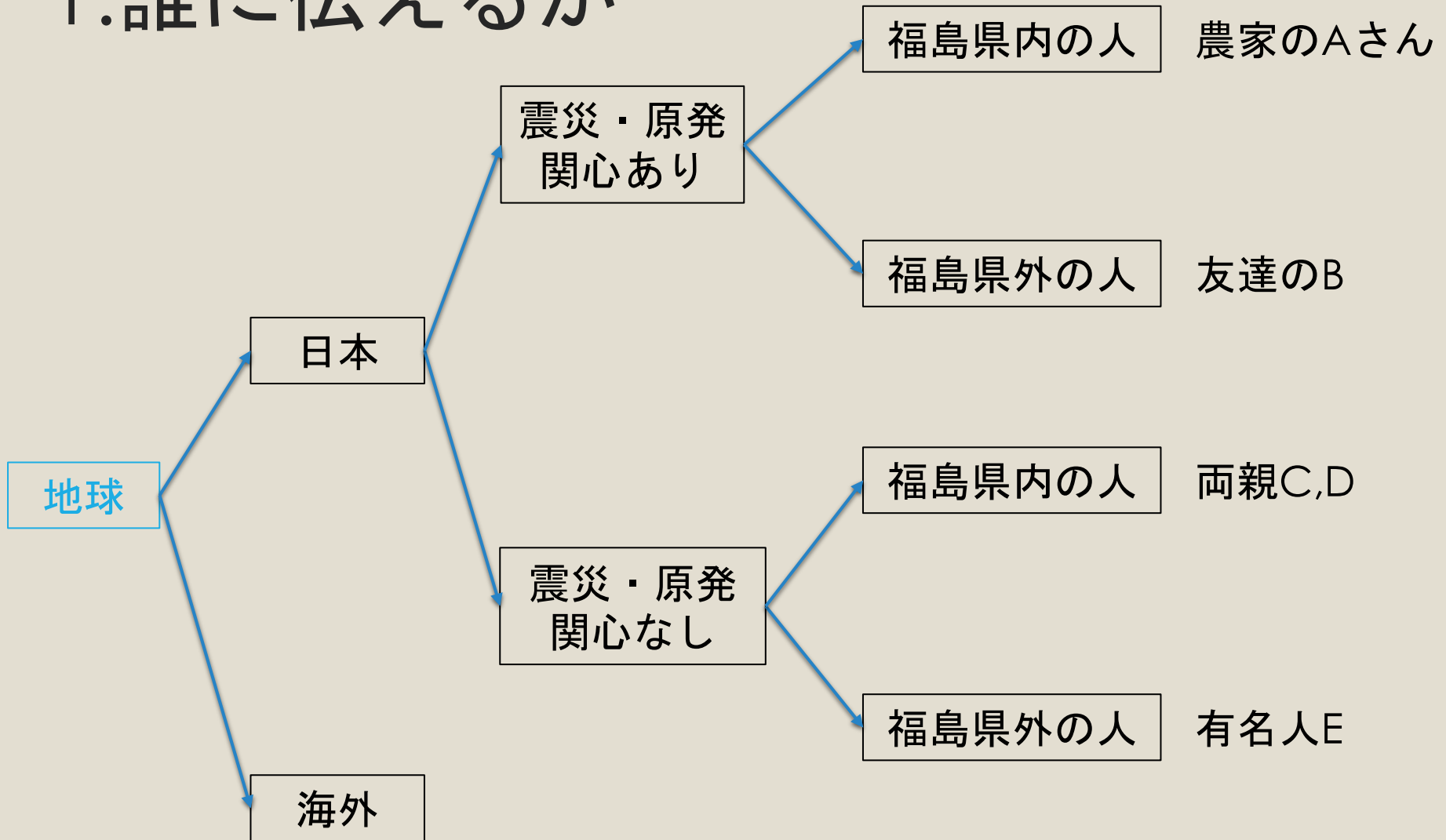
神戸常盤大学 井上爽

大阪大学 牧野優翔

大阪大学 紺野未夢

大阪大学 吉岡真志

1. 誰に伝えるか



具体的に4人の人物を仮定して考えてみた

PROFILE

農家のAさん



大熊町に長く住んでいた。

震災時は農作業をしていた。

現在は避難指示が解除された大熊町に戻ってきている。

原発事故後、放射線についての勉強をした。

最近若い夫婦が大熊町に移り住んできて農業を始め、
自分も農業を再開しようか悩んでいる。

私が研修の内容を伝えたら農業のモチベーションアップ...？

伝えたいこと

- 土壌線量の現状
- 測定方法について
- 農業を始めるにあたって行政の補助金があること
- 植物の種類別での放射線吸収量について(キノコはCsを吸収しやすい)
- 県外の人はどう思っているか(いまだ過度に放射線を避けることがあるということ)
- 安全性のアピールの仕方

伝え方

- データを忠実に伝える
- 高齢の方でも分かりやすく伝える。(スマホ講習みたいな感じ)
- どんな作物から始めたらいいかを一緒に考える。
- **自信を持って農業に取り組んでもらえるようにポジティブに**
- これまでに行われている広告方法を伝えて、一緒にどうしていくかを考える。

- 安心して農業を始められるような伝え方が重要
- 作物が安心かどうかを決めるのはあくまで消費者側...
→だからこそ広告の仕方を一緒に考えるのが良い!
- 農家のAさんに寄り添った伝え方が大切。

PROFILE

友達B



兵庫県住み

中学が一緒で、仲が良い。大学の学科も同じ。

放射線については知識がある。

テレビで福島の話を見て興味を持った

興味を持ったはいいが...

よくわからないことが多いと思っている

今回は研修に参加しようかしないか迷って、不参加

私が研修の良さを伝えたら来年は参加してくれそう...？

伝えたいこと

- 自分の目で見ることの大切さ
- 自分と違う大学の人との交流、意見交換ができて楽しい！
- 地域の人との交流は研修に参加したからこそ！
- 放射線の知識はあるので、具体的な測定方法や測定結果を伝えたい。
- 食べたもの、景色等の旅行要素についても触れたい

伝え方

- 相手に興味を持ってもらえるような話し方
- **関心の度合いに応じて話すことを変える**
- 経験した中で楽しいと思ったことを中心に伝える
- 写真や資料を使う
- 疑問が多いはずだから、一個一個答えてあげる。
- フランクな雰囲気、楽しさが伝わるように！

- ・ その人の関心に合わせた話し方で興味を引く
- ・ 迷うより行ってみようと思ってもらえるような伝え方が必要
- ・ 友達だからこそできる議論をする

PROFILE 父・母(40-50代)



震災前までは郡山市に住んでいた。

震災後、避難して現在は県外の田舎に住んでいる。

震災のことをあまり思い出したくない

福島が良くなると思えてない

県外に出たので情報も少なく福島って復興してるの？
と思っている。

私が研修の内容を伝えたら福島に帰りたくなる...？

伝えたいこと

- 福島の現状について
- 線量等のデータを伝える
- 福島に行って自分が感じたこと
- 福島が復興してること、未来の世代のための町作りのために頑張っていること
- 震災が起こった時から現在までの福島のこと

伝え方

- 写真や資料を使う
- **安心してもらえるような話し方**
不安を思い起こさせない、不安を煽るような話し方は×
- 私たちが見たことや感じたことをそのまま話す
- ありのままや感情のままに伝える(友達には言いにくいことでも)

- 父や母の周りの人(同世代・高齢者)にも伝えてほしい
- 何もない田舎を盛り上げていくことを諦めないでほしい
- 私たちが福島に行って活動することへの不安を少しでもなくしてほしい

PROFILE

有名人E



中高生に人気で今話題の20代、2人組Youtuber
動画を出せば100万回再生、影響力抜群
これまで福島のことを意識したことはない
最近、福島出身の友達(私)ができた
何かを発信すれば必ずバズる

私が研修の内容を伝えたら福島関連の動画を作成してくれる...?

伝えたいこと

- 何があったのか(震災、事故)
- 福島がどんなところか
- 12年たってどういう状況なのか
- いいところがたくさんある！
- 大熊は住みやすい
- 新しいことを始めるのにうれしいサポートがある

伝え方

- 事実や偏りのない意見を発信する
- 印象操作がないようにする
- 個人として発信する、案件ではない
- 一緒に福島を回る
- 明るい伝え方

- 震災は同じ日本で起こったことなので、知ってほしいし忘れないでほしい
- 被災地というレッテルが薄れるくらいの魅力を広く発信してほしい
- 影響力のある人が、純粹に紹介してくれることも復興につながる

まとめ

前提として：話す相手に合わせた雰囲気を作り、話し方を変える

- ・ 自分の目で見て耳で聞いた情報を素直に伝える。
- ・ 話をする人がどのような状況に置かれているのか、
どんな立場なのかを考えてはなす。
- ・ ただ話すよりも、話を聞いてどんな風感じてほしいかを意識することで伝え方も変わる。
- ・ 明るい伝え方が良い